キリスト教学校教育 9

2016・2017年度教研テーマ
時代の担い手としてのキリスト教学校ー共に喜び、共に泣くー

▶第61回事務職員夏期学校特集 〈2～3面〉
▶公募 〈3面〉
▶キリスト教教育者物語 〈4面〉
▶第62回東日本小学校教職員協議会 〈〃〉
▶行事予定 〈〃〉

（一社）キリスト教学校教育同盟
〒169－0051
東京都新宿区西早稲田2－3－18
日本キリスト教会館72号室
電　話　03（6233）8225
ＦＡＸ　03（6233）8226
理事長　梅津　順一
編集人　田村　浩一

頒価200円（加盟法人の購読料は会費に含まれています）
（毎月1回15日発行）

第61回事務職員夏期学校 東山荘で開催される

「キリスト教学校で事務職員として働くとは？」を主題に、第61回事務職員夏期学校が7月22日（土）～24日、御殿場のYMCA東山荘において開催され、全国33法人92名および実行委員10名の102名が参加した。

1日目、開会礼拝（開校式）では小河陽校長（関東学院学院長）の挨拶に続き、関野和寛牧師（日本福音ルーテル東京教会牧師）より「キリスト教なんて知らねーし」と題された説教がなされた。実行委員によるオリエンテーションの後、アイスブレイクとなる親睦の時を経て、参加者はグループに分かれて、メンバー同士での交流のひとときを過ごした。夕食の後には、森野光生講師（株式会社聖学院ゼネラルサービス代表取締役・前聖学院事業担当特命局長）より、ご自身の企業及び様々な気づきを得た。その後、国友淑弘講師（桜美林大学非常勤講師）による特別講演「ゴスペルを叫ぼう！」では、ゴスペルミュージックの由来や歴史、神の福音（良い知らせ）による喜びを歌うという本来の目的についての紹介がなされ、参加者はOn Happy Dayを2つのグループに分かれて賛美し、選ばれた学校のメンバーがリードを務めるなど会場は一体感に包まれた。

3日目、全体会では、グループ討議を通して完成させた特性要因図がグループごとに発表され、講師からは講評と共に「明日からぜひ今回の学びをそれぞれの職場で実践して欲しい」との促しがあった。閉校式では小河校長から「人が持つ根源的な価値を理解し、効率重視が優先されるこの時代にあって、教職員や学生との出会いを通して、良き個性を認め高め合って欲しい」と語られ、3日間のプログラムが締めくくられた。

全体を通して、改めてキリスト教学校が創立者や草創期の人々の強い祈りと具体的な行動により建てられ、建学の精神を土台として成長してきたことを強く意識させられた。加速度的に変化する厳しい社会状況の中で、なお私立学校が今後も存続・発展するためには、変えてはならないものを堅持し、変えるべきものは果断に速やかに変えていく必要がある。学校職員が建学の精神を毎日どれだけ真剣に意識し、本気で学生・生徒・児童と向き合い、経営・教学を自分事としてとらえつつ、日々の業務の実践につなげているか。今回参加した職員ひとりひとりに与えられている役割と責任は重く、その可能性は大きい。

（関西学院大学国連・外交総括センター、事務職員夏期学校実行委員）

（夏期学校特集2～3面に続く）

昨秋竣工した東山荘新本館

開会礼拝　小河陽校長挨拶

雨天のため講堂で撮影

加盟校動静

沖縄キリスト教学院
神山繁實氏が5月23日付けで理事長を辞任、10月までの残任期間を友利廣氏（大学・短大学長）が理事長職務代理者として務める。

大阪キリスト教学院
今井洋氏が6月23日付けで理事長を辞任、24日付けで正田浩三氏が後任に就任。

一般社団法人キリスト教学校教育同盟「eラーニングによる教員免許状更新講習」について

・いつでも、どこでもインターネットで受講が可能です。
・キリスト教学校教育を土台とした講座です。（第三次申込9月1日～10日）

講習講座内容・申し込み方法・料金等については教育同盟ホームページ（トップページ「お知らせ」）をご覧ください。

事務職員夏期学校礼拝説教

お前も小さなキリストに！

イザヤ書53・1～5

牧師　関野 和寛

ある時、教会で身寄りのない男性の葬儀を執り行う事になった。だがその直前に棺を安置している霊安室に独りのホームレスのおじちゃんがいきなり入って来たのだ。しかもまったく知らない他人。そればかりか、そのおじちゃんは霊安室で腰を下ろしてスポーツ新聞を読み始めてしまった。教会は誰がいつ来ても良い場所だと思うが、流石にこれはまずいと思い、そのおじちゃんに「ここは霊安室だから出てください！新聞ならロビーで読んでください！」と少しきつめに言った。おじちゃんは霊安室から出てロビーに行き新聞を読みだしたが、しばらくするとまた霊安室に戻って来た。私は頭にきてしまい、もう一度同じ事を告げて彼を追い出したのだ。お葬式は無事に終わったが、私はそのホームレスのおじちゃんの不可解な行動が頭から離れなくなってしまった。「何故彼は誰も入りたくないような霊安室に入って来て、しかも棺の前で新聞を読んでいたのであろうか!?」そんなモヤモヤを抱えたまま、私は親友の仏教のお坊さんがやっている坊主バーというお店に言ってこの出来事を話した。するとお坊さんはこう言った「関野さん、そのホームレスのおじちゃんはイエスさまじゃないのか？身寄りの無い人の人生の最後にそっと寄り添い、共に悲しむ、イエスさまってそんな人なんじゃないのか？」と。

私の心に衝撃が走った。「確かにそうだ！あのおじちゃんは孤独に地上を去りゆく人を悼む為にあの霊安室に入って来たのだ。そして天国に迎えに来たイエスさまだったのだ！」と。それなのに私は、そんなおじちゃんイエスさまを嫌だなと思い「出て行ってください」と追い出してしまったのだ。私が心から信じているはずのイエスさまの姿を見せてくれたのはホームレスのおじちゃんだった、そしてそれを教えてくれたのは仏教のお坊さんだった。そして場所はバーだったのだ。キリスト教主義の学校、イエスさまはチャペルに居るのではないし、チヤプレンや聖書科の先生の中だけに宿っているのでもない。イエスさまは不思議な方法で思いもよらない人の中に宿り、そしてその姿を現す。もちろんそんなイエスさまはここに集っている職員皆の中にも宿っている。そして私たちが想いもよらない方法でその姿を現し、出会い接する学生たちにキリストを伝える事ができるのだと私は信じている。キリスト教主義の学校はキリストの体であり、そこで働く一人ひとりもまた小さなキリストなのである。

〈日本福音ルーテル東京教会牧師〉

第61回事務職員夏期学校

主題講演

キリスト教学校で事務職員として働くとは？

㈱聖学院ゼネラルサービス代表取締役　森野光生

相手への理解を深めるためには顔を見てコミュニケーションをとることが大事、その結果…

私は3年間のサラリーマン生活を経て、1977年4月に女子聖学院短期大学に事務職員として就職しました。以来今年3月末の定年までちょうど40年間事務職員として勤務してまいりました。

短大事務職員として

最初に配属になった短大事務室は事務長を含めて8名の小所帯でしたので、年度末の繁忙期は事務職員全員で卒業処理、入学準備を1ケ月以上に亘って毎日残業でこなしていました。また当時（1980年代前半だったと思います）短大としては全国でも例のない教務事務にコンピューターシステムを導入しました。導入の過程ではソフト会社も我々もともに初めてのことですから、お互いに勉強しながら検討を重ねました。このコンピューター導入を比較的スムーズに進めることが出来たのは、当時の学長、事務長の強力なリーダーシップでした（もっともお二人とも機械ものが好きということが言えたと思いますが）。その時以来毎日続いていた年度末の残業はピタッとなくなりました。但しここから分かったことは、プリントアウトされた帳票の見た目の美しさに、あたかも全てが正確で正しいものと錯覚してしまうのですが、結局最後は人間の目を通してのチェックは欠かせないということでした。

大学人事課、中高事務室、そして法人事務局へ

短大事務室に入ってから1988年に同じキャンパスに4年制大学が設立された後2年の合計13年を大学キャンパスで過ごし、1990年4月からは人事課に異動となりました。計算が苦手な私ですが若い人に助けられて何とか仕事をすることが出来ました。人事課時代は組合との団交も経験しました。当時はまだベア闘争の時代でしたから大変厳しい折衝でした。人事課を4年経験し、今度は1994年4月付けで聖学院中高（男子）事務室への異動でした。ちょうど聖学院中高では創立90周年事業として、校舎・講堂棟建て替えの準備が始まっており、中々体験できない大きなプロジェクトを経験することが出来ました。工事中の忘れられない出来事に、旧校舎解体時の近隣住民からの頻繁にくるクレーム対応、工事が進むにつれて様々な新たな要求への対応等々苦労も多かったのですが、竣工した時の喜びはひとしおでした。

2012年までの18年間を中高事務室で過ごし、この年の4月からは法人事務局に異動となり、総務部、人事部で法人全体の運営に関わる部署で定年を迎えることになりました。

相手を尊重し、顔を合わせて直接話す

私は高等教育機関である短大（大学）と中等教育機関である中高事務室の経験から、同じ事務職員でも所属によってその役割に違いがあることを経験しました。

大学教員の役割は「教育と研究」で事務職員との分業がはっきりしています。また中高の教員は「教育と指導」でほぼすべての学校行事は教員が前面に出て事務職員は後方からサポートするという違いがあります。従って所属部署によって自分の果たすべき役割を認識すべきだと思います。私が最初に所属した短大事務室は同じ事務室で小規模でしたから、上述しましたように忙しい時は当然のこととして全員で事の処理に当たりました。

学校規模の違いもあるとは思いますが、多くの大学、法人事務局では部署が建物別になっているため、他の部署が何をやっているのか、何故忙しいのか見えません。そうすると仕事上の調整で意見が分かれた時、ややもすると言い合いになり、仕事を押し付け合ったり、時には感情的になってしまうことがあります。そんな時に大事なことは「相手の意見をよく聞く」ということです。

今の時代メールやラインといった方法が主流ですが、私があえて申し上げたいのは、なるべく「顔を合わせて直接話す」ようにすることです。このようにすることでお互い相手への理解が深まり、深まれば互いを尊重します。そしてここに信頼関係が生まれます。このことは新約聖書「ペトロの手紙一」4章10節に「あなた方はそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい」とあるように、私達一人ひとりに神様が与えて下さった賜物があるのですから、相手を尊重しなければならないのです。

このことは事務職員同士だけのことではありません。先生方そして学生・生徒・児童、保護者との関係においても同じことです。そしてこれを貫くことが「キリスト教学校で事務職員として働いていることの証し」となるのではないでしょうか。

夏期学校に参加して

キリスト教学校の事務職員として

米満勇佑

「御殿場の山の中で何が待ち受けているのだろうか…」そんなことを考えながら訪れた東山荘の夏期学校では、今後の業務はもとより自らの人生までもが豊かになるような大変有意義な時間を過ごすことができました。

「キリスト教学校で事務職員として働くとは？」という主題の基、様々なプログラムが設けてありましたが、いずれの時間も新たな気づきの連続だったように思います。特に印象深かったプログラムは森野氏による主題講演とグループ討議です。

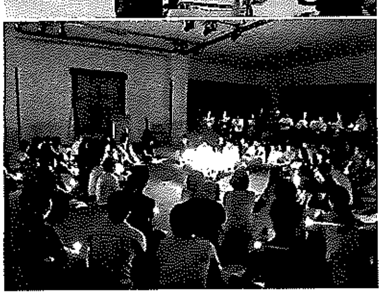
主題講演では企業と学校法人の両方の現場を経験された森野氏から、職員としての心構えについてお話しいただきました。「事務職員ではあるが〝教育者〟としての自覚を持つこと」や「コストの意識を持つこと」など様々な切り口からお話しいただきましたが、私自身もいま学院が存続しているのは何より学生のおかげであることに感謝しながら、頂戴した学費を有効活用することを意識し、「学生ファースト」で仕事をしたいと感じました。

また、グループ討議では「キリスト教学校の職員として今、私たちにできること」をテーマに自由闊達な意見交換を行いました。その後の全体会での発表では、ユニークな意見も数多く出る中、キリスト教への理解を深めると共に建学の精神を体現することの重要性を再認識する機会となりました。

今後も誰に対しても、何に対しても感謝の気持ちを忘れず、愛を持って隣人と全力で向き合う職員でありたいと思います。

（西南学院大学キャリアセンター就職課）

主日礼拝（関野牧師）



キャンドルライトサービス

キリストとの出会い

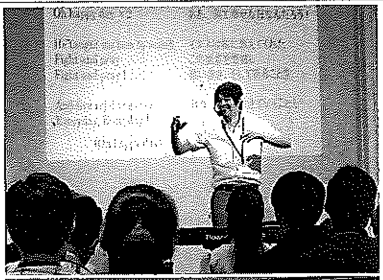
田中聖美

〝キリスト教学校〟の事務職員という名のもとに全国から集まった92名。クリスチャンでない人が多数を占める中で行われた今回のプログラムは、キリスト教に触れる良い機会になったのではないかと思います。また、日々の業務を淡々とこなしがちな事務職員にとって、どのように〝キリスト教学校〟という要素を活かすことができるかを考える有意義なものとなりました。

「キリスト教学校の職員として、今、私たちにできること」をテーマに10のグループに分かれて討議した結果、一番多く見られたのはキリスト教を理解することでした。では、キリスト教の理解とはどのようなことなのでしょうか。私は、関野牧師のお話しを通して、キリストの存在に気付くことにあると思いました。関野牧師は、実体験をもとに、キリストはあらゆる人を用いて私たちに現れてくださる、とても身近な存在であるということを伝えてくださいました。目には見えないけれど、確かに感じることができる。それは、クリスチャンにならなければならないということではなく、誰もが感じることのできるものであると思います。そして、その体験がキリスト教の理解につながり、キリスト教精神に基づいた業務につながるのではないかと思います。

キリスト教学校の事務職員として、関わる人々の中にキリストを感じ、また自身も用いられる者となりたいと思います。

（同志社女子中学校・高等学校経理係）



「ゴスペルを叫ぼう！」（国友講師）

「いま私たちにできること」を考える

石川祥子

様々な技術の革新やグローバル化の進展に伴って私たちを取り巻く環境は急激な変化を遂げ、教育のあり方が重要な社会的課題となっている現状において、キリスト教学校もまたその教育の真価が問われています。

今回この夏期学校への参加を通して、いま私たちに何ができるのか、改めて見つめ直す機会をいただけたことにとても感謝しています。また、今回キリスト教の教えについてより深く学んだことで、日本で昔から大切にされてきた「和の心」と同じような考えが、キリストの教えのなかにもあることを知り、より親しみやすく身近なものとして感じることもできました。

特に印象に残っているグループ討議では「キリスト教学校の職員として今私たちにできること」という共通テーマで、グ

（3面につづく）

主日礼拝の献金

事務職員夏期学校で行われた主日礼拝での席上献金2万8736円は、日本聾話学校、聖坂学院に贈られた。

（2面よりつづく）

ループメンバーと様々な局面でのキリスト教学校のあり方について議論を重ねました。各学校によって「建学の精神」はもちろん学校の背景や置かれている状況も異なるのですが、話し合いを進めるうちに課題の根幹は共通する部分が多いということに気づかされました。良分と異なる考えを持って職務にあたることが大切だと思います。

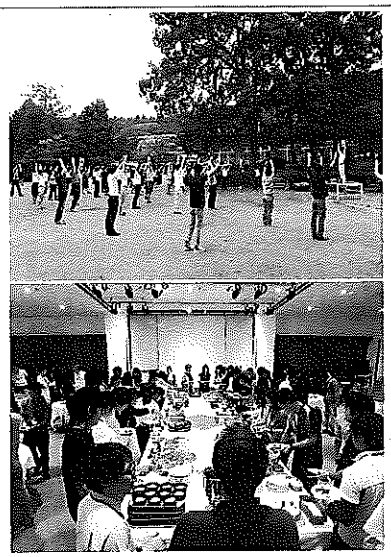
（関東学院大学企画運営部広報課）

「キリスト教なんて知らねーし」の衝撃

山縣洋太

読者の皆さまは、今私のタイトルを見て驚かれているかと思います。実はこの「キリスト教なんて知らねーし」は夏期学校初日の開会礼拝で日本福音ルーテル東京教会の関野和寛牧師からいただいた説教のタイトルです。私もプログラムを読んでいる時にこの説教のタイトルを見て皆さまと同じように驚いてしまいました。しかし、このタイトルは驚きと同時に緊張の緩和と安心感を与えてくれたとも思っています。私は入職するまでキリスト教に関わる機会がなく、今回の夏期学校参加は不安が大きかったですが大切だと思います。

（関東学院大学企画運営部広報課）



朝の体操

夕食　懇親の時

夏期学校は3日間あっという間に過ぎ、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。何より、3日間じっくりと「キリスト教学校で事務職員として働くとは？」という1つのテーマについて考えるということでも贅沢な時間を過ごすことができたことが最大の収穫です。1つの大切なテーマについて夏期学校で初めて出会った皆で深く考え、討議をすることで自分の考えをより深めることが出来たと思っています。

今回夏期学校で初めて顔を合わせた皆さんとの交流が出来たことも私の収穫です。この1期一会の出会いに感謝し、これからも継続して交流を続けていければと思っています。

最後に今回の夏期学校開催に向けてご尽力いただいた全ての皆様に感謝致します。ありがとうございました。

（尚絅学院大学学生生活課）

アンケートから

1．主題について（キリスト教学校で事務職員として働くとは？）

☆日頃の業務に追われて見えなくなっていた「キリスト教学校の職員という自覚が学生えなかったとも思う。

2．主題講演について

（森野光生講師）

☆教育の理念に関わっているという意識をもち、相手を尊重するよう心がけたいと思った。☆学生と話す機会をつくり、「学生のために働いている」ということを忘れないようにしたい。☆大学と中高の役割の違いが分かりやすかった。☆対学生と同じように対職員間も尊重と理解が必要であることに気付かされた。☆事務職員である前に一人の人間として大切なことを数多く学べた。☆いろいろな讃美歌を知ることができた。☆皆と声を合わせて歌うと気持ちが良く、また一体感を感じた。☆歌うことでキリスト教を学んだ。

グループ討議

全体会　各グループ発表

3．特別講義について（ゴスペルで叫ぼう！）国友淑弘講師）

☆皆と歌うことができて交流も深まった。☆歌っているうちに自分も元気になっていると感じた。☆今回のような機会がなければキリスト教学校の職員という大切さを学んだ。☆ゴスペルが生まれた背景・社会状況を忘れてはいけないと思った。☆先生の楽しいトークとテンションの高さに引き込まれた。☆体験・参加型の講義は新鮮だった。

4．礼拝について（キャンドルサービスも含む。）

関野和寛牧師）

☆朝の礼拝は自分と向き合い、聖書を読み、賛美歌を歌うことは自分を豊かにしていくことだと実感した。☆関野牧師の話はクリスチャンでない人にも分かりやすく、これまでのキリスト教のイメージが変わった。☆今後も礼拝に参加してみようと思った。☆個々のグループの個性が出る良い発表を聞けた。☆発表の表現はグループごとに異なっていたが、キーワードは通じており興味深かった。☆自分では思いつかない意見が聞け貴重な機会だった。

5．グループ討議について

☆いろいろなアイデアに触れることができ有意義だった。☆他校との違い、自校の良さを考える良い時間となった。☆他の研修とは違う、働く上での共通する部分を見つけられたのが良かった。☆学校は違っても大切にしている精神は共通するところが多くつながりを感じた。

6．全体会について

☆自分の業務の中で活かしたいことが多くあった。☆いろいろな讃美歌を知ることができた。☆皆と声を合わせて歌うと気持ちが良く、また一体感を感じた。☆歌うことでキリスト教を学んだ。

7．讃美歌を歌おうについて（宮内隆委員長）

☆礼拝前に練習があったので安心して讃美歌が歌えた。☆どの讃美歌も旋律が美しい。☆歌詞を考えながら歌うことができたのも感謝しています。

8．プログラム全体について

☆講演や特別講義にも音楽と触れ合え豊かな時間が過ごせた。☆キリストを信じるか信じないかが重要ではなく、キリストの愛のあらわれとしての「学校」で学生や周囲に尽くすというあり方がすごく腑に落ちた。☆キリスト教学校に勤めている責任、自覚をより持たなくてはいけないと気付いた。

9．その他

☆実行委員・事務局に感謝。☆参加経験の先輩からはマイナスイメージはなく聞かされていたが、こういう機会はなかなかない良い経験だった。☆もう少し交通が便利な会場が良い。☆来年も参加したい。

公募

▼看護学部看護学科
職種＝基礎看護学　准教授又は講師、公衆衛生看護学　講師各1名
応募締切＝9月30日
問合せ＝☎0857-27-8355

▼北星学園女子中学校・高等学校
職種＝英語科期限付き嘱託教員2名
応募締切＝9月15日
問合せ＝☎011-581-7153

▼宮城学院中学校・高等学校
職種＝英語科外国人常勤講師1名
応募締切＝10月31日
問合せ＝☎022-279-1331

▼青山学院中等部
職種＝国語科特別教諭1名（1年後専任への身分切替予定）
応募締切＝9月15日
問合せ＝☎03-3407-7463

▼恵泉女学園中学校・高等学校
職種＝国語科専任教員1名、英語科非常勤講師若干名
応募締切＝国語科＝9月8日、英語科＝13日
問合せ＝☎03-3300-2115

▼香蘭女学校中等科・高等科
職種＝国語科専任教諭又は講師、家庭科専任教諭及び講師、理科（生物）専任教諭、数学科講師各1名
応募締切＝9月29日
問合せ＝☎03-3708-1136

▼立教女学院中学校・高等学校
職種＝数学科専任教員1名
応募締切＝9月15日
問合せ＝☎078-741-1501

▼広島女学院中学校・高等学校
職種＝英語科、国語科教諭各1名
応募締切＝9月9日
問合せ＝☎082-228-4131

▼清和女子中学校・高等学校
職種＝数学科期間採用教諭1名
応募締切＝9月30日
問合せ＝☎088-883-1200

▼活水中学校・高等学校
職種＝英語科常勤講師1名
応募締切＝10月20日
問合せ＝☎0957-861-5176

▼立教女学院小学校
職種＝専任教員若干名、代理教員1名
採用予定日＝18年4月1日（代理教員は可能な5月18年1月6日）
職種＝聖書科非常勤講師
採用予定日＝11月8日
職種＝英語科非常勤講師
採用予定日＝18年1月9日
応募締切＝9月22日
問合せ＝☎03-3334-5102

▼関東学院六浦小学校
職種＝契約教諭（学級担任）1名
応募締切＝9月8日
問合せ＝☎045-701-9285

▼立教女学院
職種＝学院オルガニスト　臨時職員1名
応募締切＝随時
問合せ＝☎03-3334-5470

▼敬和学園大学
職種＝総務課会計係任期付専任職員1名
採用期間＝12月1日～18年11月30日
応募締切＝9月22日
問合せ＝☎0254-26-3838

▼名古屋中学校・高等学校
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝9月15日
問合せ＝☎052-721-5271

▼活水女子大学
職種＝国語科教諭1名
応募締切＝9月15日
問合せ＝☎03-3917-1121

▼フェリス女学院中学校・高等学校
職種＝中学校社会科（歴史）・高校地歴公民（世界史）専任教諭又は常勤講師1名
応募締切＝9月8日
問合せ＝☎045-641-0242

▼関東学院中学校・高等学校
職種＝数学科専任教諭、養護、美術科契約教諭各1名
応募締切＝9月9日
問合せ＝☎045-781-1001

▼横浜共立学園中学校・高等学校
職種＝英語科、国語科、社会科（日本史）、保健体育科（女性）専任1名
応募締切＝9月8日
問合せ＝☎045-821-8218

▼同志社中学校・高等学校
職種＝保健体育科専任教員1名
応募締切＝10月6日
問合せ＝☎03-3334-5470

▼聖学院中学校・高等学校
職種＝国語科専任教諭又は講師、家庭科専任教諭及び講師、理科（生物）専任教諭、数学科講師各1名
応募締切＝9月29日
問合せ＝☎048-781-7253

▼啓明学院中学校・高等学校
職種＝国語科専任教員1名
応募締切＝9月15日
問合せ＝☎078-741-1501

▼広島女学院中学校・高等学校
職種＝英語科、国語科教諭各1名
応募締切＝9月9日
問合せ＝☎082-228-4131

▼清和女子中学校・高等学校
職種＝数学科期間採用教諭1名
応募締切＝9月30日
問合せ＝☎088-883-1200

▼活水中学校・高等学校
職種＝英語科常勤講師1名
応募締切＝10月20日
問合せ＝☎0957-861-5176

▼立教女学院小学校
職種＝専任教員若干名、代理教員1名
採用予定日＝18年4月1日（代理教員は可能な5月18年1月6日）
職種＝聖書科非常勤講師
採用予定日＝11月8日
職種＝英語科非常勤講師
採用予定日＝18年1月9日
応募締切＝9月22日
問合せ＝☎03-3334-5102

▼関東学院六浦小学校
職種＝契約教諭（学級担任）1名
応募締切＝9月8日
問合せ＝☎045-701-9285

▼立教女学院
職種＝学院オルガニスト　臨時職員1名
応募締切＝随時
問合せ＝☎03-3334-5470

▼敬和学園大学
職種＝総務課会計係任期付専任職員1名
採用期間＝12月1日～18年11月30日
応募締切＝9月22日
問合せ＝☎0254-26-3838

▼名古屋中学校・高等学校
職種＝専任事務職員1名
応募締切＝9月15日
問合せ＝☎052-721-5271

▼聖学院中学校・高等学校
学科
職種＝障害者福祉論　准教授又は助教1名
応募締切＝9月11日
問合せ＝☎048-781-0946

▼聖学院大学
▼政治経済学部政治経済学科
職種＝経済学分野　准教授又は助教1名

▼保育科
職種＝教育実習他　講師1名

▼食物栄養学科
▼人文学部欧米文化学科
職種＝臨床栄養学他　講師以上1名
職種＝英語教育　教授、准教授又は助教1名
応募締切＝9月20日
問合せ＝☎03-3531-6211

▼心理福祉学部心理福祉

※採用予定日は特記以外18年4月1日です。

キリスト教教育者物語 ㊷

ソール先生

― 祈りの人と文部省訓令第12号 ―

神戸女学院

キリスト教主義学校にとって最大の問題となった文部省訓令第12号（1899年公布）。この時、神戸女学院の院長は Miss Susan Annette Searle（1858～1951）、第４代院長に就任したばかりでした。神戸女学院ではキリスト教教育を守るために各種学校に留まることを決めました。ソール先生はボストンの伝道会本部に、学院は政府から何も特典を与えられようとは思わないから、学院の宗教教育についても政府の干渉を何も受けたくないという決意を示した報告書を送っています。

この決意の背景には、これまで先生が進めてきた神戸女学院の高等教育の基礎がありました。３代目院長と共に1885年からカリキュラム改訂を重ね、1891年に３年制の本格的なリベラルアーツによるカレッジ課程を定め、1892年には初めての卒業生を出していました。先生は決して焦らずカリキュラムの充実に努め、1899年の私立学校令による認可に続いて、1909年、専門学校令による認可を受けるに至りました。

「祈りの人」と呼ばれた先生を記念する礼拝堂があります。その献堂式で先生の祈りについてのエピソードが紹介されました。先生は学生たちに常々「祈りは物事を変える力を持っているという真理」を語っておられたそうです。「祈りにより友を神に導くことが世の中にて最も当然の事に感じられ得るに至るまで我等自身をキリストに近くあらしめよ」–先生の日本での最後の講話の中の一節です。

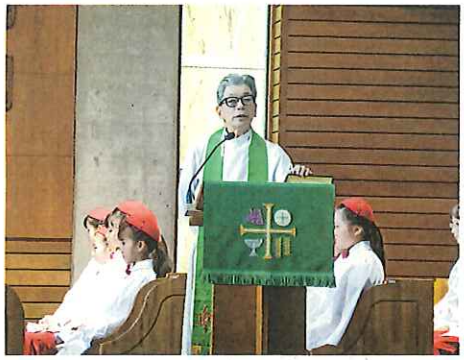
佐伯裕加恵
〈神戸女学院史料室〉

第62回東日本小学校教職員協議会
立教女学院小学校で開催される

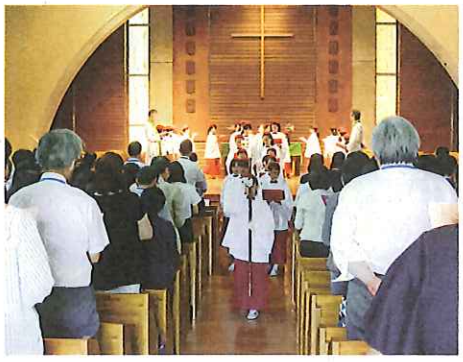
去る6月17日（土）９時30分より15時45分まで、「時代の担い手としてのキリスト教学校―共に喜び、共に泣く―」という主題のもと、第62回東日本小学校教職員協議会が開催されました。会場は武蔵野に近い立教女学院小学校で、参加者は参加校、幼稚園、カトリック小学校、教育同盟事務局を合わせて、305名でした。

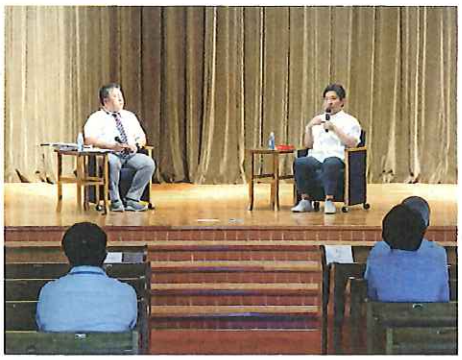
まず、午前中は聖マリア礼拝堂で開会礼拝を守りました。学院オルガニストの岩崎真実子先生のパイプオルガンの奏楽で始まった礼拝は聖公会の式文に沿って守られました。説教者は聖公会神学院校長の佐々木道人先生。新約聖書コリントの信徒への手紙一12章12～27節から「弱く見える部分が、かえって必要なのです」と題してみことばを語られました。佐々木先生は、「体の中でほかよりも弱く見える部分の山本香織先生、立教女学院小学校校長の佐野新校）③どこを切っても生先生からご挨拶があり「敬神奉仕」を目指して事にすることで平和が来る。それをおろそかにしてはならないと語られました。礼拝全体を通して聖歌隊がその所作と奉唱を通して素晴らしい奉仕をしてくださいました。

続いて教育研究委員会（教研）小学部会委員長から弱いかすかな声を大



開会礼拝　説教は佐々木道人聖公会神学院校長





是枝裕和氏（右）

分科会

ながら考えたこと」と題して映画監督の是枝裕和氏による講演がありました。是枝監督が会場校の立教女学院小学校の保護者ということで今回の講演が実現しました。同小学校の吉田大郎先生がナビゲーターを務め、是枝監督の映画作品９作品の予告編を上映しながらその作品を通して語るという仕方で対談が行われました。

昼食は、参加者一同がマキムホール（食堂）に集まり、立教女学院小学校の給食の人気メニューをいただきました。

午後は参加者全員が分科会に分かれて研修の時を持ちました。まず、担当校による分科会としての紹介と新任教員の紹介、次年度の会場校・平和学園小学校のあいさつがあり、閉会祈祷をもってすべてのプログラムを終了しました。

小澤淳一
〈青山学院初等部宗教主任〉

事務局だより

9月となり、静かな学校に児童・生徒たちが戻ってきた。学校に息吹が吹き込まれ、瞬く間にすべてが動き出す。

教職員にも、新たな日々の学校生活が始まり、悪戦苦闘が待っている。苦しみ悩む中に、教師として大きく遜ってきていないだろうか。同じことが初めて来ることも事実。

大学では、束の間の研究の時間が生まれるこの時期、リトリートもこの時に慌ただしく取り、秋学期を待つ。

事務局では、この夏に新たな研究集会が数多く動き出し、休みの無い夏休みが過ぎて行った。それぞれの会に集う教職員は、自身の振り返りを静かに行った。

日本の夏であった真っ青な空に真っ白の入道雲、が撲した。東京では梅雨のような空模様が8月続いた。長雨が各地に言いようのない水害を引き起こした。

湿度は飽和状態、気温は冷夏となり、日常が異常となり、これまでの在りようでは如何ともしがたい日々となっている。

変化、キリスト教学校において、学校間格差が急速に進んでいることに誰もが気付いている。２つの課題が見えてくる。

キリスト教学校における、理事長・学院長・大学長の立ち位置が依然として生きがいが生まれて来ることも事実。

等中等学校にも起こっている。学校運営と教学の責務の両方を兼ねる校長において、学校間格差が急速に進んでいることに誰もが気付いている。２つの課題が見えてくる。

キリスト教学校における、理事長・学院長・大学長の立ち位置が依然として生きがいが生まれて来ることも事実。

次世代への綿密な引継ぎが必要な時代となっているように感じるがいかがか。

教育同盟事務局長

※公募欄は3面に掲載しています。

9／7～8	第61回大学部会研究集会（青山学院大学）
8～9	第３回全国事務局長・事務長会議（金城学院大学）
23	第４回常任理事会（教育同盟事務局） 全国広報委員会（東洋英和女学院）
11／1～2	第53回中高研究集会（北陸学院中学校・高等学校）
10～11	第59回学校代表者協議会（関西学院）
13～15	第50回全国聖書科研究集会（遺愛女子中学校・高等学校）
18	第３回キリスト教看護教育推進会議（福岡女学院看護大学）
	キリスト教学校教育懇談会 第15回講演会（大阪）